

氏名	岡村 朋香
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6463 号
学位授与の日付	2021 年 9 月 24 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Association Between Eosinophilia and Late-onset Circulatory Collapse in Preterm Infants: A case-Control Study (症例対象研究：早産児における晩期循環不全と好酸球増多症との関係)
論文審査委員	教授 増山 寿    教授 野田卓男    准教授 中村一文

#### 学位論文内容の要旨

早産児にみられる合併症である晩期循環不全は相対的副腎不全が原因と考えられている。また、好酸球増多症も副腎不全と関連していることから、我々は晩期循環不全と好酸球増多との関連を調べた。2008 年から 2010 年の間に NICU に入院した在胎 28 週未満の児において晩期循環不全を発症した群(LCC 群)と、晩期循環不全を発症せずグルココルチコイドを投与しなかった群(コントロール群)において好酸球数を比較した。28 症例のうち、LCC 群は 12 例、コントロール群は 16 例だった。経過中の好酸球数最高値を比較したところ、LCC 群はコントロール群より有意に高かった(中央値:  $1.392 \times 10^9/L$  vs.  $1.033 \times 10^9/L$ ,  $p=0.02$ )。また、LCC 群においてグルココルチコイド治療後は治療前に比べ有意に好酸球数は低下していた。好酸球増多は晩期循環不全における症状の一つと言える。

#### 論文審査結果の要旨

早産児にみられる合併症である晩期循環不全は相対的副腎不全が原因と考えられている。また、好酸球増多症も副腎不全と関連していることが知られている。

本研究では、晩期循環不全と好酸球増多との関連を検討した。NICU に入院した在胎 28 週未満の児において晩期循環不全を発症した群 12 例(LCC 群)と、晩期循環不全を発症せずグルココルチコイドを投与しなかった群 16 例(コントロール群)において経過中の好酸球数最高値を比較したところ、LCC 群はコントロール群より有意に高かった。また、LCC 群においてグルココルチコイド治療後は治療前に比べ有意に好酸球数は低下していた。好酸球増多は晩期循環不全における所見の一つと考えられた。

委員からは、好酸球数が予知や重症度・治療効果判定に活用できないかと質問があった。本研究者は症例数が少なく明確ではないが、サイトカインなど他のマーカーと組み合わせると検討を進めていきたいと回答した。

本研究は、好酸球増多は晩期循環不全の所見の一つであることを示し、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。